

鎌倉の埋蔵文化財10

Buried Cultural Properties in Kamakura 10

平成17年度発掘調査の概要



平成19年3月
鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉の地下には、かつて栄えた中世都市の跡が埋蔵文化財として今でも多く遺^{のこ}されています。これらの文化財は、残念ながら、土木工事などによってそのままの姿で保存できないことが少なくありません。このような工事で失われる埋蔵文化財と、現在の市民生活との調和をはかるために、現状保存のかなわない遺跡については、記録保存を目的とした発掘調査を実施して、その様子を今日の私たちが理解できるようにすると同時に将来に伝え、活用することとしています。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、文化財めぐりでの発掘調査現地説明会、鎌倉駅地下道ギャラリーでの埋蔵文化財パネル展示、遺跡調査・研究発表会などの事業を実施して発掘調査の成果を皆様にご紹介しています。

『鎌倉の埋蔵文化財10』は平成17年度に発掘調査を実施した遺跡のなかから、代表的なものを選んでその概要をお知らせいたします。本誌をご覧になる皆様にも往時を生きたひとびとの姿をご想像いただければ幸いです。

これからもさまざまなかたちで発掘調査の成果をお知らせするよう努めてまいりますと思います。今後とも、埋蔵文化財に対するご理解・ご協力をお願いします。

～目次～

1	若宮大路周辺遺跡群	2
2	若宮大路周辺遺跡群	5
3	若宮大路周辺遺跡群	7
4	清涼寺跡	9
5	宝蓮寺跡	11
	英文要旨	13

～例言～

◎本書は平成17年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。

本書に掲載した遺跡の調査概要は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。

伊丹まどか、菊川英政、齋本秀雄、原廣志、福田誠、宮田眞、森孝子（50音順・敬称略）

◎表紙題字は松尾右翠氏に揮毫を。また英文翻訳は山藤正敏氏にお願いしました。

〈表紙写真〉若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目276番18ほか地点）全景
Cover-page photograph : Full view of the sites surrounding Wakamiya-Oji

1 わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路 周辺 遺跡群 (小町一丁目276番18ほか地点)

The sites surrounding Wakamiya-Oji

これまでに類例のない方形竪穴建築址を発見

若宮大路周辺遺跡群は、若宮大路を中心として東は滑川、西は今小路までひろがる都市遺跡です。調査地は、若宮大路と横須賀線が交差するガードの東側、扇川の左岸脇に所在します。ここでは平成17年度に実施した発掘調査によって、13世紀初頭から14世紀にかけての遺構が発見されました。方形竪穴建築址は鎌倉で度々発見されますが、今回発見された方形竪穴建築址5と名付けられた遺構は、地下部分の壁に土丹をきれいに積み重ね、床面にも土丹を敷き詰めたものであり、これまで類例はありません。このほか、本調査地点では土丹を敷き詰めた方形竪穴建築址が発見されています。また、調査地点は、東西が溝で区画されています。土丹を使った方形竪穴建築址が溝の西側に集中していることも、当時の土地利用を考えるうえで大きな特色といえましょう。このほかに、井戸や土坑などが発見され、韓半島からもたらされた高級な磁器や国産の陶磁器、「かわらけ」、漆器、鑄造に使ったと考えられる鋳型などが出土しました。

- (1) 竪穴の底に石や板を敷いてその上に角材を並べ、柱を組む「本組構造」を採用した建物のことを指します。方形竪穴建物がつくられた時期は13世紀から14世紀頃と考えられ、鎌倉に幕府が置かれていた頃から、幕府が滅亡した後もしばらくの間つくられました。方形竪穴建築址は、主に倉に用いられたと考えられますが、一部は住居や店、工房などに利用されていた可能性が考えられます。
- (2) 砂質の粘土が堆積し、長年にわたって堅く締まった石状のもの。
- (3) 朝鮮半島を指します。
- (4) 皿のかたちをした素焼きの土器をいいます。お酒を飲む時や、食べ物を盛るのに使われ、また、火を灯すために油を注いだ器などに使われました。中世都市鎌倉では「かわらけ」が大量に使われていたようで、市内の遺跡において最も多く出土する土器です。



若宮大路周辺遺跡群発掘調査区全景
Full view of the excavated area in the sites surrounding Wakamiya-Oji



若宮大路周辺遺跡群発掘調査区全景

Full view of the excavated area in the sites surrounding Wakamiya-Oji



方形竪穴建築址 5

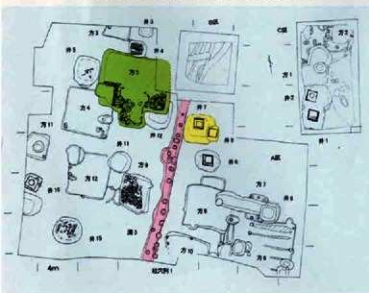
The sunken square pit dwelling remain No. 5



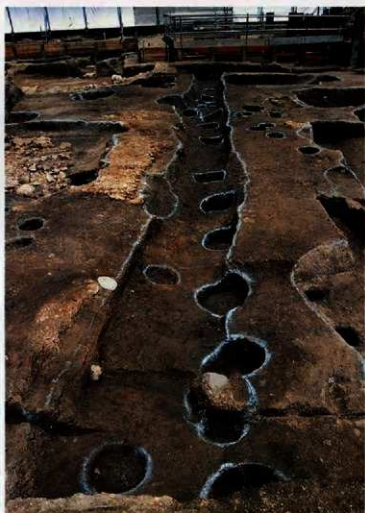
井戸7・井戸9
Well No.7 / Well No.9

(下図凡例)

- 溝と柱穴列 (4頁下段写真) A gutter and a line of pillars
- 井戸7と井戸9 (4頁上段写真) Well No.7 / Well No.9
- 土丹と積み重ねた方形堅穴建築址 (3頁下段写真)
A sunken square pit dwelling remain laying dotans



遺構配置図 (発掘調査区全景)
Distribution of remains (Full view of the excavated area)



溝と柱穴列
A gutter and a line of pillars

2 若宮大路周辺遺跡群 (御成町783番1 ほか地点)

The sites surrounding Wakamiya-Oji

大量に見つかった方形竪穴建築址

2～4ページでご紹介した調査地点と同じ若宮大路周辺遺跡群の範囲内ですが、この発掘調査地点は今小路をはさんで御成小学校の向かい側になります。この場所は、平成17年度に実施した発掘調査によって、68棟もの方形竪穴建築址が発見されました。これら建物は、出土した遺物からみると13世紀後半以降に建てられたと考えられ、このことから、今回の調査地点付近は13世紀後半になってから急速に土地利用が進んだことがわかりました。以降、15世紀にいたるまでの遺構・遺物が見つかりました。

本地点の周辺は、縄文時代頃から形成されたと考えられている砂丘の上に立地しています。砂丘の上に数多く建てられた方形竪穴建築址からすると、調査地点一帯は、中世の商人たちが物流の拠点としていたと考えられます。このほかにも、井戸が6基、地面に穴を掘って遺体を埋めた土墳墓と呼ばれるお墓が2基など、さまざまな遺構が発見されました。

出土した遺物も豊富で、遠く中国大陆から運ばれてきた陶磁器や、愛知県の瀬戸や常滑で焼かれた陶器が発見されています。このほかにも、青銅製の銭、石でできた鍋や碗、砥石、「かわらけ」、遊び道具として双六の駒や碁石なども見つかっています。



方形竪穴建築址

A sunken square pit dwelling remain

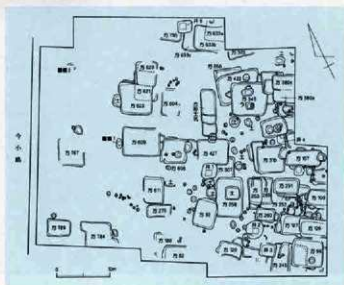


瀬戸仏花蒔出土状態
Seto vases excavated



方形竪穴建築址
A sunken square pit dwelling remain

- (1) 人類の残した過去の建築物・工作物・土木構造物などをいいます。
- (2) 地面に穴を掘り込んで遺体をおさめたお墓をいいます。



遺構配置図 (発掘調査区全景)
Distribution of remains (Full view of the excavated area)

3 若宮大路周辺遺跡群 (小町二丁目4番1地点)

The sites surrounding Wakamiya-Oji

鎌倉時代の街割りの姿

若宮大路周辺遺跡群の中で、若宮大路に立つ「二の鳥居」の北西約60mに所在する地点をご紹介します。ここでは、13世紀前半から後半にかけての屋敷跡と考えられる一角が見つかり、掘立柱建物跡・井戸・溝・枕列・土坑などが発見されました。⁽¹⁾

発見された遺構のなかでも、溝3は幅約70cm以上、深さ84cmの立派な溝で、若宮大路と直交する位置関係にあることから、若宮大路を中心とした街割りの様子がうかがえる遺構として興味深いものです。⁽²⁾ また、見つかった掘立柱建物1・2は4間以上×4間以上、掘立柱建物3・4は4間以上×6間以上と大型であり、いずれも建物の軸線が若宮大路に直交していました。このことから、調査地点にあった屋敷は、南北に走る若宮大路を意識して営まれていたようです。遺物としては、「かわらけ」、愛知県の渥美でつくられた陶器、中国の浙江省でつくられた磁器などが出土しています。⁽³⁾

- (1) 地面に穴を掘り込み、その穴に柱を立ててつくられた建物を指します。
- (2) 町の区画のことを指します。
- (3) 建物の柱と柱の間を言います。4間であれば、柱が5本立っていたことになります。



若宮大路周辺遺跡群発掘調査区全景

Full view of the excavated area in the sites surrounding Wakamiya-Oji



井戸と板材

A well and a wooden board



かわらけ出土状態 (かわらけ溜り)

"Kawarake" excavated (An accumulation of "Kawarake")

4 ^{せいりょうじあと} 清凉寺跡 (扇ヶ谷四丁目556番4 ほか地点)

The site of Seiryouji Temple

^{かまくらいし} 鎌倉石を使った溝

ここでご紹介する発掘調査地点は、^{げんじやま} 源氏山の北に所在します。一帯は「^{おろぎやつ} 扇ヶ谷」という谷戸の中で最も奥に位置し、南側に開口した「^{せいりょうじがやつ} 清凉寺谷」という小さな谷戸になっています。名前の通り、清凉寺と⁽¹⁾いう寺院が存在していたのが名の起りですが、今はなくなってしまい、寺の正確な位置や大きさ、いつごろまで存続していたのかは明らかになっていません。

発掘調査の結果、^{かまくらいし} 鎌倉石の^{きりいし} 切石を使用した溝が発見されました。溝の西側は丁寧に切り出した切石を^{せいぜん} 整然と積み重ねていますが、東側はやや雑な積み方になっています。その理由として、溝の東側に道路と考えられる土丹を敷き詰めた跡が見つっているため、西側の石積みは道路から立派に見せるための視覚的効果をねらったことが想像されます。逆に東側は、人目につかないことから雑な積み方にしたのかもしれない。

調査地点の西側斜面には「やぐら」が存在しており、今回発見された溝は「やぐら」の前面に設けられています。溝で区画された場所は、どのように土地利用されていたかが興味深いところです。なお、今回の調査では、谷戸の土地利用が始まったとされる13世紀中頃から15世紀前半までの遺物が出土しました。主な出土遺物としては、「かわらけ」^{しつぎ}、漆器、木製品、愛知県の常滑や瀬戸でつくられた陶器などがあげられます。

- (1) 宗旨は不明ですが、市内の名越に存在したという清凉寺と区別して、新清凉寺とも呼ばれます。^{ごくらくじ} 極楽寺を開山した慧性が一時期住んだという伝えもあります。
- (2) 鎌倉で切り出されて、製品として流通した石材の総称を言います。^{せうらいひん} 砂質凝灰岩が主に使われました。



清凉寺跡発掘調査区全景

Full view of the excavated area in the site of Seiryouji Temple



溝石積み

A gutter of piled stones

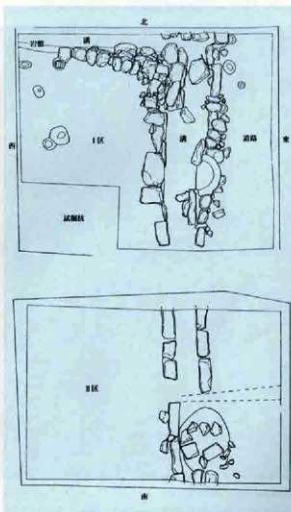
遺構配置図（発掘調査区全景）

Distribution of remains (Full view of the excavated area)



漆碗出土状態

A bowl of lacquer ware excavated



鎌倉時代の寺院跡

最後にご紹介するのは、市役所の北西に位置する佐助ヶ谷^{さすけがや}と呼ばれる谷戸^{やと}の中で、東側にある宝蓮寺^{ほうれんじ}谷^{がや}という小さな谷戸における発掘調査地点です。名前のとおり、宝蓮寺⁽¹⁾という寺院がかつて存在していましたが、江戸時代の中頃になくなったと言われていました。

遺構としては、鎌倉石を使用し、13世紀中頃に営まれたと考えられる礎石建物^{きそいしたてもの}が発見されました。重量のある立派な建物があつたのでしょうか、中世で礎石建物⁽²⁾というとき寺院建築^{じいんけんちく}が考えられますので、調査地点周辺の谷戸の土地利用に寺院が関わっていたことが想像されます。ただ、その寺院を宝蓮寺と断定することはできません。このほか、調査区北側では石切場の跡が見つかっており、谷戸が切り拓かれていく様子がうかがえます。13世紀の終わりになると礎石建物はなくなり、南北方向に土塁状^{どるいじょう}の遺構⁽³⁾がつくられます。土塁状遺構の側面は、両方とも基礎部分に大型の土丹が並べられ、その内側は土丹と土をつき固めながら盛土しています。遺物としては、「かわらけ」、陶磁器^{とうしき}、石製品^{せきせいひん}、鉄製品^{てつせいひん}、銭^{ぜに}などが出土しました。

- (1) 宗旨が分かっていない寺院ですが、この地に中世から営まれていたそうです。
- (2) 地盤^{ちばん}を強く改良し、その上に柱をのせるための石を置いた建物を言います。
- (3) 土で築かれた堤状^{つちづか}の防御施設^{ぼうえいしせつ}のことを指します。



宝蓮寺跡発掘調査区全景

Full view of the excavated area in the site of Hourenji Temple



発掘調査区全景

Full view of the excavated area



石切場跡

A remain of quarry

Buried Cultural Properties in Kamakura 10

1. The sites surrounding Wakamiya-Oji

Discovery of sunken square pit dwelling remains unknown hitherto

Sites surrounding the Wakamiya-Oji stretch from east to west, Nameri River to Imakouji. The excavated area is situated on the east of crossing bridge of Wakamiya-Oji Street and Yokosuka line, on the left bank of Ougi River. During the excavation in April 2005 to March 2006 season, building remains dated from the early 13th to 14th century AD were found in this area. Sunken square pit dwelling remains often have been found in Kamakura-City; however, no other example like the remains of the building which was named the Sunken square pit dwelling No. 5 had been known hitherto, due to the building way that dotans are neatly laid on the wall of the subterranean part as well as on the floor. Furthermore, there is another building on which dotans were laid in the excavated area. The excavated area is divided into eastern and western sections by a ditch. The fact that the building remains using dotans concentrate in the western section may be significant in considering the use of land in those days. Wells and pits were also discovered. Quality porcelain from the Korean peninsula, domestic ceramics, kawarakes, lacquer ware, and molds used for casting, were found.

2. The sites surrounding Wakamiya-Oji

A large quantity of square pit building remains

This excavated area, which is part of the sites surrounding Wakamiya-Oji mentioned in pp.2-4, is situated on the other side of Imakouji street, in front of Onari elementary school. In this area, 68 of sunken square pit dwelling remains were discovered during the excavation of April 2005 to March 2006. By observing the artifacts, these building remains are dated as belonging to the late 13th century AD. It is clear that this area and its vicinity had been rapidly developed from the late 13th century AD onward. Building remains and artifacts belonging until the 15th century AD were also found.

The excavated area and its vicinity are situated on a sand dune formed around the Jomon period. Given that many sunken square pit dwelling remains were built on the sand dune, it may be assumed that the excavated area and its vicinity were a trading stronghold for medieval merchants. Furthermore, 6 wells, 2 burial pits, and other structures were discovered.

A rich collection of artifacts were also found: ceramics from China, porcelain made in Seto and Tokoname in Aichi, bronze coin, stone pots, ink stone, kawarakes, and pieces for the board game "Go" and "sugoroku" (Japanese backgammon).

3. The sites surrounding Wakamiya-Oji

The city division in the Kamakura period

We will introduce the area located about 60 m to the Northeast of the Second gateway of the Shrine ("Ni no Torii") standing on Wakamiya-Oji street. In this area, one corner of an estate remain dated from the early 13th to late 13th century AD was discovered, and remains of shacks supported pillars without foundation, a well, ditches, a line of posts, and pits were found from there.

In the excavated structure, the ditch No. 3 was more than 70 cm width and 84 cm depth. Considering that this ditch and Wakamiya-Oji street cross each other at right angles, it is possible that this ditch may indicates a town division which had been centered around Wakamiya-Oji street. Also, remains of shacks supported pillars without foundation No. 1 / 2 and 3 / 4 are large type. No. 1 and 2 measure more than 4 Ken length and more than 4 Ken width. No. 3 and 4 measure more than 4 Ken length and more than 6 Ken width (there on 'Ken' between each pair of pillars). Building axes of these shacks and Wakamiya-Oji street crossed each

other at right angles. An estate existed in the excavated area had been built in relation to Wakamiya-Oji street running north to south. Kawarakes, pottery made in Atsumi in Aichi, porcelain made in Zhèjīng province in China, were found.

4. The site of Seiryōji Temple The ditches using Kamakura stones

The excavated area is situated to the north of Genji mountain. The area is located in the inner most part of valley named "Ougi-ga-yatsu", and it is a small valley named "Seiryōji-ga-yatsu", opening toward south. Although its name derives from Seiryōji temple which located in that place to the name, the temple does not exist there at present. It is unclear where the temple had been located, how large it was, and until when it had existed.

A ditch that used Kamakura stones was discovered. Though carefully quarried stones were laid neatly on the western side of the ditch, stones were somewhat laid in a disorderly manner on the eastern side of it. As a reason for this, it is assumed that there might be a road paved with dotans on the eastern side of the ditch, and the western side of the piled stone wall was built carefully to give a good visual effects, in order to show it magnificently from the road. On the contrary, it seems that the wall of the eastern side was laid with less care as it was not observable from the roadside.

The ditch found in this excavation season is laid out in front of yagura, which was located on the western slope of the excavated area. The artifacts dated from the middle 13th to early 15th century AD were found in this season, while the valley might come to be used in the middle 13th century AD. The finds include kawarakes, pottery made in Tokoname and Seto in Aichi, lacquer ware, and wooden artifacts, principally.

5. The site of Hōrenji Temple A temple remain in the Kamakura period

Finally, we would mention the excavated area which is situated in the small valley named "Hōrenji-ga-Yatsu", a part of "Sasukega-Yatsu" valley located to the northwest of the city hall and situated on the eastern side of "Sasuke-ga-Yatsu" valley. It is said that Hōrenji temple had existed formerly and was abandoned around the middle of the Edo period.

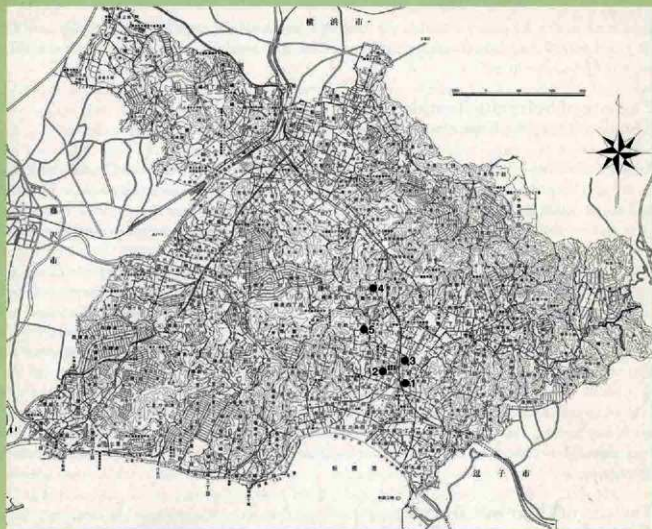
The remain of a building structure on foundation rocks, for which Kamakura stones were used, was found; it might be dated around the middle 13th century AD. It is supposed the land use of valleys around the excavated area related to a temple, since building structures on foundation rocks in mediaeval period were usually temples. However, it is not clear whether the temple could be identified as Hōrenji temple. Also, remains of a quarry was found in the northern part of the excavated area. The valley seems to have developed through its use as a quarry. At the end of the 13th century AD, building structures on foundation rocks were no longer observed, and a remain like earth ramparts was constructed along the north-south axis. Large dotans were laid on both sides of the foundation of the remain like earth ramparts, and dotans and soil were hardened and heaped in the inside of it. Kawarakes, ceramics, stone artifacts, iron artifacts, coin, and so on, were found.



銅製杓子 (若宮大路周辺遺跡群・小町一丁目276番18ほか地点)

A copper ladle

(Sites surrounding the Wakamiya-Oji)



《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

1. 若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目276番18ほか地点）
2. 若宮大路周辺遺跡群（御成町783番1ほか地点）
3. 若宮大路周辺遺跡群（小町二丁目4番1地点）
4. 清涼寺跡（扇ガ谷四丁目556番4ほか地点）
5. 宝蓮寺跡（佐助二丁目905番3地点）

鎌倉の埋蔵文化財10

発行日 平成19年3月30日
編集・発行 鎌倉市教育委員会
印刷 グランド印刷株式会社
